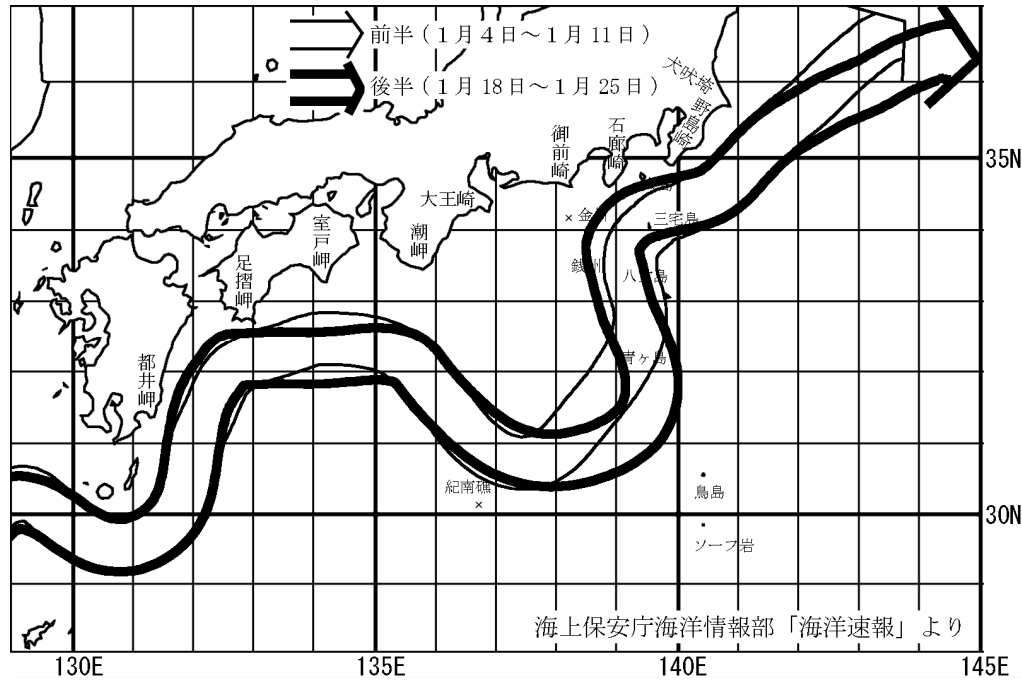


漁海況月報

平成 17 年 1 月 1 日

No. 1 ~1 月 31 日

静岡県水産試験場
(電話 054 627 4815)
静岡県水産試験場伊豆分場
(電話 0558 22 0835)



海上保安庁海洋情報部「海洋速報」より

【黒潮流路】

黒潮は、月を通じて A 型流路で伊豆諸島の西側を北上、三宅島付近を通過し房総半島に接岸して流れていた。中旬に一時的に内側反流が弱まった。下旬後半に駿河湾、相模湾内に暖水波及がみられた。

【県下沿岸域】

県下の定地水温は、相模湾側では 14~17 台、駿河湾東部では 14~18 台、駿河湾西部では 10~17 台で経過した。県内各地の定地水温は、地頭方(平年並み~やや低め)を除いて、平年並み~高めで経過した。

【竿釣近海カツオ】

1 月の県内主要 5 港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海カツオの水揚量は 288 トンで前年同期の 626%であった。魚価は 284 円/kg で、前年同期を大きく下回った。

御前崎市場での調査によれば、静岡県船は、主に中旬から今年の操業を開始し 22°~24°N、136°~142°E で体長範囲 39~77cm のカツオを漁獲した。

竿釣近海カツオ水揚量 (県内主要 5 港)

期 間	水揚量 (トン)	水揚 隻数	水揚量 / 隻 (トン)	平均単価 (円 / kg)
17 年 1 月上旬	0	0	-	-
中 旬	54	3	18.1	433
下 旬	233	10	23.3	250
17 年 1 月計	288	13	22.1	284
16 年 1 月計	46	6	7.7	532
15 年 1 月計	273	13	21.0	365

【サバたもすくい棒受網】

小川港に水揚げされたサバ類は 462 トンでマサバが 71kg 混じった。漁場は、三宅島周辺海域に形成された。ゴマサバは 25cm 以下の小型魚、2004 年級群(1 歳魚)が主体に漁獲された。1kg 当たりの平均単価はマサバでは 525 円、ゴマサバでは 29 円であった

小川港 サバ類(たもすくい・棒受網漁業)水揚量

期 間	水揚量 (トン)	日数	延隻数	1 隻当り (トン)	漁 場
平成17年 上旬	-	-	-	-	
1 月 中旬	153	1	4	38.1	三宅
下 旬	309	3	9	34.4	三宅
計	462	4	13	35.5	- - - - -
平成 16 年 1 月	303	7	22	13.8	三宅、利島
平成 15 年 1 月	465	8	35	13.3	三宅、大島

2005 年 1 月

定地水温の旬平均値 ()

(下段は偏差)

期 間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上 旬	16.4	17.3	16.6	16.8	17.7	17.3	13.0
	1.2	1.5	1.3	1.2	2.0	2.6	0.1
中 旬	15.1	15.9	15.8	15.9	15.3	16.1	12.2
	0.2	0.5	1.1	0.8	0.2	1.8	0.1
下 旬	14.4	15.7	15.8	16.2	15.4	15.7	10.6
	0.0	0.8	1.5	1.6	0.8	1.7	1.3
月平均	15.3	16.3	15.9	16.3	15.8	16.4	11.9
	0.4	0.9	1.2	1.2	0.8	2.1	0.5

[シラス船曳網]

1日1か統当りの水揚量は、駿河湾で53kg、遠州灘で120kgだった。主要6港平均では87kgと前年同期(89kg)の97%で、平年同期(過去5か年平均:86kg)とほぼ同じであった。1月の総水揚量は17.7トンと、前年同期(12.1トン)の146%、平年同期(10.2トン)の173%に当り、順調であった。平均単価は1,671円/kgと前月より下がったものの、平年同期(1,030円/kg)を大きく上回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁港	水揚量(トン)	日数	延統数	平均漁獲量(kg/統・日)	平均単価(円/kg)
新居	0.8	2	9	83	1,708
舞阪	3.8	2	36	106	1,608
福田	5.9	2	37	158	1,544
御前崎	2.0	2	22	92	1,695
吉田	2.3	2	41	55	1,722
静岡	3.0	3	60	51	1,931
平成17年1月計	17.7	-	205	87	1,671
平成16年1月計	12.1	-	136	89	897
平成15年1月計	10.7	-	102	105	914

[まき網]

小川港では、マイワシは15.6トン水揚され、平年同期(過去5か年平均:207.2トン)の8%と低調であった。カタクチイワシは28.1トン水揚され、平年同期(0.2トン)の153倍と好調であった。

沼津港では、マイワシは34.2トン水揚され、平年同期(211.4トン)の16%と低調であった。カタクチイワシは水揚されなかった。

静岡港では、マイワシ、カタクチイワシともに水揚されなかった。

伊東港では、マイワシ、カタクチイワシともに水揚されなかった。

[定置網]

平成17年1月、伊豆半島東岸大型定置網8か統(伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)における水揚量は475トンであった。1漁場当たり水揚量59.3トンは、前年25.4トンの2.3倍、平年値(昭和57~平成16年平均値)19.7トンの3.0倍であった。

魚種別にみると、カタクチイワシ317トン(前年の2.6倍、平年の14倍) サンマ67.5トン(前年の4.1倍、平年の3.8倍) サバ類31.8トン(前年の4.7倍、平年の2.4倍) マアジ23.5トン(前年の12.5倍、平年の2.8倍) スルメイカ7.5トン(前年の26%、平年の40%)の順に多かった。

カタクチイワシは北川及び川奈を中心に入網し、被鱗体長の中心は11.5~13.5cmであった。サンマは谷津及び北川を中心に入網し両漁場を合わせると、サンマ全漁獲量の85%を占め、1月のサンマ漁獲量としては昭和57年以降で2番目に多く、肉体長のモードは28~29cmであった。サバ類は川奈及び谷津を中心にゴマサバ主体で入網し、尾叉長の中心は21~26cmであった。マアジは北川、伊豆山及び川奈を中心に入網し、尾叉長のモードは19cmであった。スルメイカは北川を中心に入網し、外套背長の中心は25~27cmであった。

スルメイカは北川を中心に入網し、外套背長の中心は25~27cmであった。

漁場別水揚量は、カタクチイワシ及びサンマの漁獲が多かった北川(131トン)、カタクチイワシ及びサバ類の漁獲が多かった川奈(93.1トン)、サンマ及びカタクチイワシの漁獲が多かった谷津(63.0トン)の順であった。

[調査船の動向]

富士丸

1月14日~ 南方カツオ調査(18日間)

駿河丸

1月5~7日 地先定線観測(駿河湾・遠州灘・伊豆)(3日間)

1月13~14日 駿河湾内にてサクラエビIKMT調査(2日間)

1月18~19日 波勝崎沖にてマリンロボ調査(2日間)

1月24~24日 波勝崎沖にてマリンロボ調査(1日間)

1月27~28日 駿河湾内にてシラス調査、久能沖にてトラフグ試験操業(2日間)